

第四回全國保育連合大會

第四回の全國保育連合大會は、去七月二十七日、二十八日の兩日、九州地區福岡市において盛大に行われた、が來り會するもの二千を以てかぞえる、保育精神の大團結であつた。活潑な意見の發表、力ある討論、つゞいておこる嵐のような拍手、——九州の地は保育精神のオリンプス殿堂として、保育精神の大フェスティバルとして、湧くがごとく、燃えるが如き盛大の壯觀であつた。本誌は特にこの盛事の模様を、全國同志につたえ、又、あとにつゞくものにつたえるべく、内山、岡田の兩氏に乞うてその記録を掲げた。(編集部)

テント下の感想

全保連前事務局長 内山憲尙

全保育大會も回を重ねて窓々第四回を迎えた。もうこゝまでくれば、存立の確定が實證せられ、永續が約束づけられたものである。希望の光は永久に、全國保育連合會の上にさし込んでくるであらう。今やこの重大な使命を帯びて第四回全國保育大會の幕は切つて落されんとしている。

x

新潟の第三回全國保育大會で次回開催地として九州地區が引き受けて斷つて以來、直ちに大會準備に着手して、一ケ年の間九州保育界は擧げて本年の大會にその全心全力を傾注したのであつた。それにもかゝらずいくつかの難點も案じられた。

その一は南によりすぎていて、特に關東、東北から出掛けるとすると多大な費用を要す

るということであり、その二は幼稚園教諭の新免許法による資格單位をとる講習が夏休み中全國で開かれていることである。そこへ新しい難點が突發した。

それは朝鮮問題で、六月には九州地區に警戒警報が發せられて、燈火管制があり、ために、各地から「大會は大丈夫ですか」との問い合わせなどあり、某地區團長さんなどは眞面目に「九州までは汽車の切符を賣らないですよ、すね」とさえ言つていられた。あぶないから中止しますという聲もところ／＼からきかされた。

以上の様な心配で、千人も集れば大盛會だ